

各 位

NPO放送批評懇談会

発表!! 第60回ギャラクシー賞

テレビ、ラジオ、CM、報道活動各部門入賞作品

テレビ部門「個人賞」「特別賞」

ラジオ部門「DJパーソナリティ賞」

志賀信夫賞 フロンティア賞

平素は放送批評懇談会にご理解とご支援をいただきありがとうございます。

テレビ、ラジオ、CMの作品、制作者、関係者に贈る賞として60年の歴史を誇る「ギャラクシー賞」。

本日、第60回のテレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門の入賞作品および、テレビ部門個人賞、特別賞、ラジオ部門DJパーソナリティ賞、志賀信夫賞、フロンティア賞を発表いたします。詳しくは次ページ以降をご覧ください。貴誌／紙、貴メディアでのお取り扱いをお願いいたします。

なお、各部門の大賞、優秀賞、選奨は、5月31日(水)開催の贈賞式で決定、発表いたします。贈賞式は放送批評懇談会 YouTube 公式チャンネルでライブ配信を行います。

第60回ギャラクシー賞贈賞式 YouTube ライブ配信

日時：5月31日(水) 午後3時～5時30分 (15:00-17:30)

司会：ジョン・カビラ 長野智子

放送批評懇談会 YouTube 公式チャンネル

<https://www.youtube.com/HOUKONchannel>



※上記 YouTube 公式チャンネルでは、過去のギャラクシー賞受賞ドキュメンタリー作品の再生リストを掲載中です。

(新型コロナウイルスの感染状況によっては、贈賞式を延期または中止する場合があります。ご了承ください。)

志賀信夫賞

岡崎 栄

フロンティア賞

「FIFA ワールドカップ カタール 2022」生中継

AbemaTV テレビ朝日

テレビ部門

連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」

日本放送協会

BS1スペシャル「正義の行方～飯塚事件 30年後の迷宮～」

日本放送協会

チャンネル4「人生の湯～黄昏時のぬくもり～」

テレビ信州

OTV報道スペシャル「水どう宝」

沖縄テレビ放送

ウムイツむぐ～着物が語る“やんばるの戦”～

琉球放送

報道1930「激震・旧統一教会と日本政治 問われる政治との距離感は」

BS-TBS

夜ドラ「あなたのブツが、ここに」

日本放送協会

声は届くのか

日本放送協会 \film&media

大河ドラマ「鎌倉殿の13人」

日本放送協会

エルビス ー希望、あるいは災いー

関西テレビ放送

「サンドウィッチマン&芦田愛菜の博士ちゃん」新春3時間SP

テレビ朝日

日曜ドラマ「ブラッシュアップライフ」

日本テレビ放送網

世界サブカルチャー史 欲望の系譜 シーズン3 日本 逆説の60-90s

日本放送協会 NHKエンタープライズ テレビマンユニオン

映像'23「バッシング 陰謀論と情報戦」

毎日放送

特別賞

「映像の世紀バタフライエフェクト」

日本放送協会

個人賞

長澤まさみ

「エルビス ー希望、あるいは災いー」（関西テレビ）の演技、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」（NHK）のナレーション

報道活動部門

新型コロナワクチンの副反応問題に関する調査報道

OBCテレビ

NEWS6 旧統一教会をめぐる調査報道

チューリップテレビ

報道特集「旧統一教会と政治」など旧統一教会をめぐる検証報道

TBSテレビ

NHK 精神医療の実態に迫る一連の調査報道

日本放送協会

ドキュメンタリー素材を平和教材として活用

広島テレビ放送

【QAB】米軍の環境汚染問題に関する2011年からの一連の報道

琉球朝日放送

ラジオ部門

復帰50周年特別番組「オキナワミュージックカンブリア」

エフエム沖縄

講談風大河ラジオドラマ「弁慶記」

FM TANABE

「SBCラジオスペシャル『黒猫』田口史人のレコード寄席～『昭和の校長先生』編」

信越放送

ドキュメント「荻上チキが見たウクライナ～見過ごされる声に耳を傾けて」

TBSラジオ

仲谷一志・下田文代のよなおし堂

RKB毎日放送

ジェーン・スー 生活は踊る

TBSラジオ

RBCiラジオスペシャル「ダニーボーイ・齊藤梯子、ジャズと生きる」

琉球放送

サンドウィッチマン ザ・ラジオショーサタデー

ニッポン放送

DJパーソナリティ賞

安住紳一郎

「安住紳一郎の日曜天国」（TBSラジオ）パーソナリティとして

CM部門

テレビCM

ACジャパン 2022AC全国キャンペーンA「寛容ラブ篇」

AC ジャパン 東急エージェンシー関西支社 高映企画

大塚製薬 カロリーメイト「狭い広い世界で篇」

大塚製薬 博報堂 catch ENOAD AOI Pro.

サントリーホールディングス 企業 シリーズ 人生には、飲食店がいる。「メッセージ篇」「不思議な場所篇」「人と篇」

サントリーホールディングス 電通 電通クリエイティブ X

セールスフォース・ジャパン 企業「失敗の数篇」

セールスフォース・ジャパン 電通 AOI Pro.

東海テレビ放送 公共キャンペーン・スポット「生理を、ひめごとにしない。」

東海テレビ放送 東海テレビプロダクション エキスプレス プラモ 東海サウンド

東海旅客鉄道 企業「会いにいく、が今日を変えていく。」

東海旅客鉄道 電通 SUPERMARKET

日清食品ホールディングス 日清焼そばU.F.O.「そろ谷U.F.O.食べたやる篇」

日清食品ホールディングス 電通 ソーダコミュニケーションズ

日本放送協会 非常用持ち出し袋 シリーズ「日常は、ひょう変する。」

日本放送協会 電通

日本マクドナルド Family Brand 家族といっしょに。「ピクルスのリレー篇」

日本マクドナルド TBWA HAKUHODO Catch コネクション Headlight

ラジオCM

中央軒 企業「記者会軒篇」

中央軒 朝日放送ラジオ ビッグフェイス

ウェブCM

佐賀県競馬組合 佐賀競馬場移転開設50周年事業「おいでやすこが様をつまてなし。」

佐賀県競馬組合 電通九州 casaage

大塚製薬 カロリーメイト「入学から、この世界だった僕たちへ。」

大塚製薬 博報堂 AOI Pro.

日本マクドナルド マックフライポテト「ティロリミックス | Ado『踊』× asmi『PAKU』」

日本マクドナルド 電通 ギークビクチュアズ

●テレビ部門は上記ノミネート14本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨10本が選出されます。●ラジオ部門は上記ノミネート8本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨4本が選出されます。●CM部門は上記ノミネート13本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨9本が選出されます。●報道活動部門は上記ノミネート6本から、大賞1本、優秀賞2本、選奨3本が選出されます。●最終選考の結果は、5月31日（水）開催「第60回ギャラクシー賞贈賞式」で発表、表彰されます。●テレビ、ラジオのノミネートは放送日順、CMは広告主企業名五十音順、報道活動は申込社（者）名五十音順に記載。●詳しい結果は6月6日（火）発売の「GALAC」2023年7月号に記載いたしますので、ご覧ください。



第60回ギャラクシー賞 テレビ部門

委員長 古川柳子

副委員長 桧山珠美

委員 石田研一 永麻理 太田省一 岡室美奈子 影山貴彦 加藤久仁 戸田桂太 並木浩一 藤田真文
松田健次 松山秀明

2022年度のギャラクシー賞テレビ部門には、上期197本、下期218本というたいへん多くの応募をいただき、毎月4本選出される月間賞48本を加えた463作品が選考対象となりました。厳正な審査の結果、入賞14本、特別賞と個人賞各1本、奨励賞71本を選出しました。

沖縄返還から50年、東日本大震災から12年、テレビ放送開始70年等、節目の年が重なり、ウクライナ侵攻、安倍元首相銃撃事件から噴出した旧統一教会問題など大きな出来事が多かった今年度。報道・ドキュメンタリーでは例年にも増して社会的な出来事との多様な向き合い方が見られ、ドラマでは本質的なメッセージ性とエンターテインメントを見事に両立させた作品群が評価を集めました。新しいバラエティの形への果敢な模索、テレビの長年の映像蓄積を新たな表現につなげる挑戦など、それぞれの領域で今年ならではの評価すべき力作がしのぎを削りました。
(古川柳子)

テレビ部門入賞作品

以下の14本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨10本が選出され、5月31日発表されます。

◆連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」

日本放送協会

◆BS1スペシャル「正義の行方～飯塚事件 30年後の迷宮～」

日本放送協会

◆チャンネル4「人生の湯～黄昏時のぬくもり～」

テレビ信州

◆OTV報道スペシャル「水どう宝」

沖縄テレビ放送

◆ウムイツむぐ～着物が語る“やんばるの戦”～

琉球放送

◆報道1930「激震・旧統一教会と日本政治 問われる政治との距離感」

BS-TBS



◆夜ドラ「あなたのブツが、ここに」

日本放送協会

◆声は届くのか

日本放送協会 、、film&media

◆大河ドラマ「鎌倉殿の13人」

日本放送協会

◆エルピスー希望、あるいは災いー

関西テレビ放送

◆「サンドウィッチマン&芦田愛菜の博士ちゃん」新春3時間SP

テレビ朝日

◆日曜ドラマ「ブラッシュアップライフ」

日本テレビ放送網

◆世界サブカルチャー史 欲望の系譜 シーズン3 日本 逆説の60-90s

日本放送協会 NHKエンタープライズ テレビマンユニオン

◆映像'23「バッシング 陰謀論と情報戦」

毎日放送

テレビ部門特別賞

「映像の世紀バタフライエフェクト」(日本放送協会)

2022年4月4日～現在放送中

世界各国で発掘・収集した貴重な記録映像を駆使して、20世紀の歴史を捉える新しい視点を提示した功績に対して

<選評>

2022年4月から「映像の世紀」の新シリーズとして始まったこの番組は20世紀の世界史を斬新な視点で見つめ、視聴者に新たな感動と驚きをもたらしました。バタフライエフェクトとは片隅で起きた蝶の羽ばたきのような小さな動きが、世界を動かす大きな変化につながるという事情を示しています。世界各国で発掘・収集した貴重な記録映像を駆使して、20世紀の歴史を捉える新しい視点を提示した功績を高く評価して、特別賞を贈ります。



テレビ部門個人賞

長澤まさみ

「エルピスー希望、あるいは災いー」（関西テレビ放送）の演技、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」（NHK）のナレーション

<選評>

「エルピスー希望、あるいは災いー」では、冤罪事件に立ち向かうテレビ局のアナウンサーという難しい役どころを繊細かつストイックに演じました。ドラマの序盤では嘘を飲み込めず嘔吐するヒロインをひりひりするような痛々しさを演じ、中盤以降では権力に屈しない強い意志を持つ報道キャスターへと変貌していくプロセスを力強く演じ切り、難しいテーマを扱ったドラマに奥行きと説得力を与えました。

その一方で大河ドラマ「鎌倉殿の13人」では、ささやくようなナレーションが独特の雰囲気醸し出し、惨劇渦巻くドラマにやわらかさと余韻を与え、ドラマの成功に大きく貢献しました。



<プロフィール>

1987年6月3日生まれ。静岡県出身。2000年、第5回「東宝シンデレラ」オーディションでグランプリに選ばれ、同年公開の『クロスファイア』（監督：金子修介）でデビュー。03年『ロボコン』（古厩智之）で映画初主演。翌04年には『世界の中心で、愛をさけぶ』（行定勲）で白血病のヒロイン・亜紀を演じ、多数の映画賞を受賞、21年第44回日本アカデミー賞では、『MOTHER マザー』（大森立嗣）で最優秀主演女優賞を受賞。映画、ドラマ、舞台と幅広く活躍する。主な映画出演作に19年『キングダム』（佐藤信介）、20年『MOTHER マザー』（大森立嗣）、21年「マスカレード・ナイト」（鈴木雅之）、22年『コンフィデンスマンJP 英雄編』（田中亮）『シン・ウルトラマン』（樋口真嗣）『百花』（川村元気）、23年『シン・仮面ライダー』（庵野秀明）『ロストケア』（前田哲）。ドラマ出演作は18年「コンフィデンスマンJP」（フジテレビ）、21年「ドラゴン桜」（TBS）、22年「エルピスー希望、あるいは災いー」（関西テレビ、フジテレビ系）。

第60回ギャラクシー賞 ラジオ部門

委員長 桜井聖子

副委員長 仲宇佐ゆり 山田真嗣

委員 石井育子 井上佳央里 川喜田 尚 北郷裕美 下田まり子 真銅健嗣 永須智之 松崎泰弘 三原 治

ラジオ部門の応募総数は昨年を上回る94本。内訳は、生ワイド16本、音楽エンターテインメント37本、ドラマ11本、報道ドキュメンタリー30本でした。選に漏れた作品を含め、地域の出来事や文化、



歴史などを丁寧に掬い上げた作品が目立ちました。各地の制作者が地域の人たちの理解や協力を得ながら取材を深化し、ともに考えながら、表現を研ぎ澄ましてきた努力の結果であったと思います。ラジオ局として開局以来長年積み上げた貴重な音源やノウハウ、出演者や地元の人々との深い信頼があったからこそ成立したであろう作品もありました。

議論と数度にわたる投票の結果、入賞作品 8 本を選出しました。ラジオならではの機動力、日常を感動的にする視点、時空を超えた言葉の力、大作へ挑戦、沖縄本土復帰 50 年、ウクライナ、戦争とは何か、被災地に寄り添うパーソナリティの姿勢など、いずれの作品からも、テーマに真摯に向き合い、そして制作者の情熱が感じられ、一人でも多くの人に聴いてもらいたい番組が並びました。 (桜井聖子)

ラジオ部門入賞作品

以下の 8 本から、大賞 1 本、優秀賞 3 本、選奨 4 本が選出され、5 月 31 日発表されます。

◆復帰 50 周年特別番組「オキナワミュージックカンブリア」

エフエム沖縄

◆講談風大河ラジオドラマ「弁慶記」

FM TANABE

◆「SBCラジオスペシャル『黒猫』田口史人のレコード寄席～『昭和の校長先生』編」

信越放送

◆ドキュメント「荻上チキが見たウクライナ～見過ごされる声に耳を傾けて」

TBSラジオ

◆仲谷一志・下田文代のよなおし堂

RKB毎日放送

◆ジェーン・スー 生活は踊る

TBSラジオ

◆RBCiラジオスペシャル「ダニーボーイ・齊藤悌子、ジャズと生きる」

琉球放送

◆サンドウィッチマン ザ・ラジオショーサタデー

ニッポン放送



ラジオ部門DJパーソナリティ賞

安住紳一郎

「安住紳一郎の日曜天国」(TBSラジオ) パーソナリティとして

<選評>

2005 年から継続中の TBS ラジオ「安住紳一郎の日曜天国 (にち 10)」は、安住アナのラジオ愛があふれる番組です。オープニングトーク、ゲストコーナーなど隅々までこだわり、どんなに忙しくても聴き応えのある放送を届けてくれる誠意をリスナーはよく知っています。そして、番組のファンは全国に広がっています。その知名度、実力、放送文化への貢献度は誰もが認めるところであり、ギャラクシー賞 60 周年の今年を飾るにふさわしい放送人の代表として称えます。これからのラジオ界、放送界を牽引していただきたいとの思いを込めて、DJ パーソナリティ賞を贈ります。



<プロフィール>

TBS アナウンサー。1973 年生まれ、北海道帯広市出身。帯広柏葉高校卒業後、明治大学に入学。97 年 4 月、TBS にアナウンサーとして入社。以降「ジャスト」「ぴったんこカン・カン」「輝く!日本レコード大賞」などニュース情報系からバラエティ、音楽、皇室特番まで、幅広い番組に出演。現在は「THE TIME,」「情報 7days ニュースキャスター」そして TBS ラジオ「安住紳一郎の日曜天国」に出演中。

第 60 回ギャラクシー賞 CM部門

委員長 家田利一

副委員長 風間恵美子

委員 伊藤健志 今宿裕昭 片桐 理 川野康之 木下一郎 生野 徹 中島和哉 野上信子 平岩モトイ
村田玲子 山下治城

第 60 回ギャラクシー賞CM部門は、上期 162 本、下期 152 本、計 314 本の応募をいただきました。内訳は、テレビCM167 本、ラジオCM86 本、ウェブCM61 本。ウェブCMは今期から応募を開始しましたが、時間に縛られずにクリエイティブの可能性を広げていくウェブCMの良さも再認識できました。私たち審査員は、議論を尽くして、入賞作品 13 本を決定しました。

いろいろな意味で、変化の多い年だったように思います。まずは、テレビやラジオの視聴行動からの影響です。多くのひとがスマホを持つことで、同じような縦型のフレームを用いるCMが増えました。



番組の「見逃し配信」が増え、Z世代の「倍速再生」も話題になりました。そんな状況下で、CMIは「振り向いてもらえるための努力」を惜しまなかったように思います。私たちにとっても、多様で多彩なアプローチに出会う年になりました。作品を選びながら、改めて、CMIは世の中と一緒に動いているのだと実感しました。
(家田利一)

CM部門入賞作品

以下の13本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨9本が選出され、5月31日発表されます。

【テレビCM】

◆ACジャパン 2022AC全国キャンペーンA「寛容ラップ篇」

ACジャパン 東急エージェンシー関西支社 高映企画

◆大塚製薬 カロリーメイト「狭い広い世界で篇」

大塚製薬 博報堂 catch ENOAD AOI Pro.

◆サントリーホールディングス 企業 シリーズ 人生には、飲食店がある。「メッセージ篇」「不思議な場所篇」「人と篇」

サントリーホールディングス 電通 電通クリエイティブ X

◆セールスフォース・ジャパン 企業「失敗の数篇」

セールスフォース・ジャパン 電通 AOI Pro.

◆東海テレビ放送 公共キャンペーン・スポット「生理を、ひめごとにしない。」

東海テレビ放送 東海テレビプロダクション エキスプレス プラモ 東海サウンド

◆東海旅客鉄道 企業「会いに行く、が今日を変えていく。」

東海旅客鉄道 電通 SUPERMARKET

◆日清食品ホールディングス 日清焼そばU.F.O.「そろ谷U.F.O.食べたやろ篇」

日清食品ホールディングス 電通 ソーダコミュニケーションズ

◆日本放送協会 非常用持ち出し袋 シリーズ「日常は、ひょう変する。」

日本放送協会 電通

◆日本マクドナルド Family Brand 家族といっしょに。「ピクルスのリレー篇」

日本マクドナルド TBWA HAKUHODO Catch コネクション Headlight



【ラジオCM】

◆中央軒 企業「記者会軒篇」

中央軒 朝日放送ラジオ ビッグフェイス

【ウェブCM】

◆佐賀県競馬組合 佐賀競馬場移転開設 50 周年事業「おいでやすこが様をうまてなし。」

佐賀県競馬組合 電通九州 casaage

◆大塚製薬 カロリーメイト「入学から、この世界だった僕たちへ。」

大塚製薬 博報堂 A0I Pro.

◆日本マクドナルド マックフライポテト「ティロリミックス | Ado『踊』 × asmi『PAKU』」

日本マクドナルド 電通 ギークピクチャーズ

第 60 回ギャラクシー賞 報道活動部門

委員長 茅原良平

副委員長 長井展光

委員 市川哲夫 市村 元 小泉世津子 齊藤潤一 塚本 茂 西島泰三 樋口喜昭 平岩 潤

今期の応募本数は上期 7 本、下期 16 本の計 23 本と前回は上回りました。傾向として、昨年同様、調査報道が全体的に多く、報道機関としての社会的役割がますます求められていると感じます。

そして、世界に大きな衝撃を与えた安倍元首相の銃撃事件に端を発した旧統一教会と政治に関する問題を取り上げた作品が、年間を通して複数の局から出品されたことは特筆すべき点です。他にもこの 1 年を象徴する出来事から沖縄復帰 50 年、ウクライナ侵攻を扱った活動も注目されました。

また、ジェンダー、温暖化、環境汚染、戦争の記憶の継承、社会悪による人権侵害、新型コロナワクチンの副反応問題と、現代社会が抱える様々な問題や課題と向き合った活動に高い評価が集まりました。

戦後、民主化が進む時代のなかで成長してきた放送メディアが、これからの社会に資することとは何か。最終選考にノミネートされた 10 本の入賞候補作を対象に厳正な審査を行い、6 本の入賞作を選出しました。
(茅原良平)

報道活動部門入賞作品

以下の 6 本から、大賞 1 本、優秀賞 2 本、選奨 3 本が選出され、5 月 31 日発表されます。

◆新型コロナワクチンの副反応問題に関する調査報道

CBCテレビ



◆NEWS6 旧統一教会をめぐる調査報道

チューリップテレビ

◆報道特集「旧統一教会と政治」など旧統一教会をめぐる検証報道

TBSテレビ

◆NHK 精神医療の実態に迫る一連の調査報道

日本放送協会

◆ドキュメンタリー素材を平和教材として活用

広島テレビ放送

◆【QAB】米軍の環境汚染問題に関する 2011 年からの一連の報道

琉球朝日放送

ギャラクシー賞フロンティア賞

「FIFA ワールドカップ カタール 2022」生中継

AbemaTV テレビ朝日

<選評>

世界最大のスポーツイベント「FIFA ワールドカップ カタール 2022」全 64 試合の無料生中継を実現させました。これまでテレビが担ってきたスポーツライブという領域に果敢にチャレンジし、その高い配信技術を駆使して安定したライブ映像を配信、完遂してみせました。さらにマルチアングル映像や追っかけ再生、マルチデバイス対応など、ネット配信ならではの機能も提供し、スポーツコンテンツの新しい視聴スタイルを開拓しました。



放送批評懇談会 第 14 回志賀信夫賞

岡崎 栄 演出家、脚本家

志賀信夫賞選考委員会 [委員長] 音 好宏 [選考委員] 川喜田 尚 藤田真文 出田幸彦 桜井聖子

「志賀信夫賞」は、当会創設メンバーである志賀信夫の長年にわたる放送批評活動の功績を記念して創設されました。広く放送文化、放送事業の発展に顕著な貢献をした個人を顕彰することが目的です。テレビ 70 年の今年にふさわしい受賞者について、慎重かつ多角的な討議を重ねた結果、第 14 回志賀信夫賞に岡崎栄氏を選出しました。

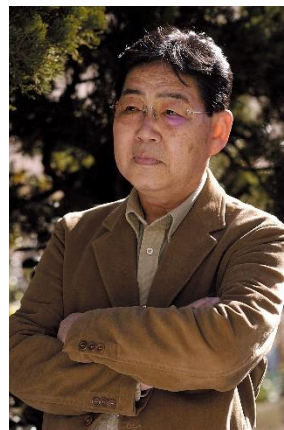
<選評>

岡崎栄さんは、日本でテレビ放送が始まった 1953 年に NHK に入局。「テレビ 1 期生」の演出家・脚本家として、ドラマをはじめ幅広い分野で数々の名作を生み出しました。多彩な演出でドラマ界に新風を吹き込むとともに、ドキュメンタリーとドラマを融合した新機軸の番組も開拓。さらに小型 VTR による臨場感と凝視力にあふれるビデオドキュメンタリーの新境地も拓きました。放送史に燦然と輝くドラマ「大地の子」では、脚本と演出総指揮を担当。

テレビという新しいメディアの可能性を追い求め、常にその時代の新しい映像文化に挑戦してきた岡崎栄さん。その功績は、テレビ 70 年にあたる 2023 年の志賀信夫賞に最もふさわしいものです。

<プロフィール>

おかざき・さかえ 1930 年茨城県生まれ。1953 年に NHK に入局。広島局でのラジオドラマ制作を経て、1960 年代に生放送のテレビドラマ「若い季節」を演出、大ヒットとなる。常に新しいドラマ表現に挑戦、初のドキュメンタリードラマ「遭難」、大河ドラマ「天と地と」、「幾山河は越えたれど」、「エトロフ遙かなり」、NHK 特集「その日 THE DAY 1995・日本」などを演出。ドキュメンタリーでは NHK 特集「氷雪の春」、「空から見たヒマラヤ」、「女形玉三郎の世界」などを制作。愛・地球博（愛知万博）開会式の演出統括を担当。ドラマ「マリコ」は放送文化基金賞本賞、ギャラクシー賞選奨、「大地の子」は芸術作品賞、放送文化基金賞本賞。芸術選奨、放送文化功労賞、紫綬褒章、2004 年に旭日小綬章受章。



■志賀信夫賞過去の受賞者／敬称略、肩書は当時

第 1 回 澤田隆治（日本映像事業協会会長）、第 2 回 後藤亘（エフエム東京取締役相談役、東京メトロポリタンテレビジョン代表取締役会長）、第 3 回 植村伴次郎（東北新社最高顧問）、第 4 回 藤田潔（ビデオプロモーション名誉会長）／TBS『調査情報』、第 5 回 石井ふく子（テレビプロデューサー）、第 6 回 松尾羊一（放送評論家）、第 7 回 山本雅弘（毎日放送最高顧問）、第 8 回 西村泰重（J:COM 初代社長）、第 9 回 川端和治（弁護士、BPO 放送倫理検証委員会前委員長）、第 10 回 今野勉（テレビマンユニオン最高顧問）、第 11 回 樋泉実（北海道大学客員教授・電通総研フェロー・北海道テレビ相談役）、第 12 回 和崎信哉（WOWOW 相談役）、第 13 回 川平朝清（沖縄放送協会初代会長）



ギャラクシー賞の概要

◆歴史および概要◆

1963年、放送草創期のこの時期に、テレビとラジオの可能性、影響力に着目し、その発展には必ず“批評”の力が必要であると考えた評論家、研究者、ジャーナリスト、作家らの有志によって創設された放送批評懇談会。ギャラクシー賞は、志ある番組を掘り起こし、制作者たちの番組作りへの情熱に光を当てて顕彰することで現場を鼓舞し、番組の向上・発展を促すことを目的に誕生した。民間の自主的意思を基盤として創設された放送賞の第一号である。表彰は年度単位。

「ギャラクシー」とは、天の川、銀河という訳のほか、佳人・才子の華やかな群れという意味を持つ。放送界にきらめく才能を表すのにふさわしいものとして、放送批評懇談会設立の核となった渋谷秀雄、内村直也、梅田晴夫そして初代のトロフィーをデザインしたガラス作家・岩田糸子らによって賞の名に選ばれた。ギャラクシー賞は第50回（2013年）を記念してトロフィーを一新。松永真デザインの「バードマン」が新しい賞のシンボルとなった。

◆賞の特徴◆

ギャラクシー賞設立時には、すでにいくつかの放送賞が存在したが、その多くは「コンクール用に盛装を凝らしたものを対象にした記念行事」（故・白井隆二）だった。白井らは、テレビやラジオが日常に根ざした媒体であることを強く意識し、年間を通じてテレビを視聴しラジオを聴いて番組を批評することを賞の大前提に掲げた。その志は現在まで貫かれ、放送批評懇談会正会員の自主的な視聴活動が賞の土台となっている。

テレビ部門では、審査を担当する選奨委員により月評会が開催され、月間賞が選出されている。他部門も定例会を持ち番組・作品を論じ合う。これらの内容は毎月、月刊誌「GALAC／ぎやらく」に掲載される。こうした活動により、“放送の現在に向き合う賞”として独自の地歩を固めている。

◆審査と表彰◆

時代性に優れ、ジャーナリスティックな感覚を持ちえていること、かつ作品として普遍的な力量を備えていることの二点が選考の柱。

放送批評懇談会正会員によって組織する選奨事業委員会が審査を担当。審査は、年2回（上期・下期）、エントリー作品を受け付けて行う。上期・下期で選出された作品を対象に年間の最終選考がおこなわれ、各賞を決定する。

表彰式は、毎年5月下旬～6月初旬に行われる。受賞者には、トロフィーと表彰状が授与される。



◆賞の内容◆

- 【テレビ部門】大賞 1、優秀賞 3、選奨 10、特別賞 1、個人賞 1
- 【ラジオ部門】大賞 1、優秀賞 3、選奨 4、個人賞またはDJパーソナリティ賞 1
- 【CM部門】大賞 1、優秀賞 3、選奨 9
- 【報道活動部門】大賞 1、優秀賞 2、選奨 3
- 【その他】志賀信夫賞 1、フロンティア賞 1、マイベストTV賞グランプリ 1
(上記のほか、周年には記念賞を設ける場合がある。)

<志賀信夫賞>

放送批評懇談会の発展に寄与した放送評論家・志賀信夫の功績をたたえるために、2010年(第47回)創設。広く放送界の発展、放送文化の向上に貢献した人物等を表彰する。放送批評懇談会正会員の推薦を元に選出する。

<フロンティア賞>

放送界の未来を切り拓く挑戦を果たした番組、仕組み等を顕彰する。2015年(第53回)創設。

<マイベストTV賞>

視聴者の参加により選ばれるテレビ番組賞で、2007年(第44回)創設。放送批評懇談会選奨事業委員会が候補番組を選定し、これを毎月、放送批評懇談会正会員と「Gメンバー」(視聴者によって構成される放送批評懇談会のオンライン会員)が投票して選出される。年間で最も得票を得たものが「マイベストTV賞グランプリ」として表彰される。

◆沿革◆

- 1963年度(表彰は1964年)ギャラクシー賞誕生、第1回。
- 1989年度 第27回、ラジオ部門独立。
- 1993年度 第31回、ラジオ部門に「DJパーソナリティ賞」新設。
- 1995年度 第33回、CM部門設立。
- 2002年度 第40回、報道活動部門設立。
- 2006年度 第44回、視聴者が選考に参加する「マイベストTV賞」を新設。
- 2009年度 第47回、「志賀信夫賞」を新設。
- 2015年度 第53回、テレビ部門にテレビの新しいチャレンジを応援する「フロンティア賞」を新設。

●放送批評懇談会について：1963年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。「GALAC(ぎやらく)」の編集・発行、優れた番組・CMを顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナーやシンポジウムの開催などを行っています。

●過去の受賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース(<https://houkon.jp/galaxy-database/>)」をご活用ください(掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など)。

以上